

# 道路交通センサスを 平成17年秋に実施します

道路交通センサスは道路の国勢調査です。道路交通センサス（全国道路交通情勢調査）は、全国の道路と道路交通の実態を把握する調査で、国、県、公団等が共同で行う全国規模の調査です。

調査は、一般交通量調査、自動車起終点調査、駐車調査などを行います。中でも、自動車起終点調査では、調査対象車両を無作為に抽出し、その自動車の使用者を訪問して、自動車の使い方についてアンケート調査を行います。

調査の結果は、種々の分析に活用され、将来のニーズに合わせた道づくり計画の策定などに役立てます。

道路は、私たちの日常生活や経済活動に欠かすことのできない、最も基本的な社会資本です。皆様のご理解とご協力をお願いします。

## ■問い合わせ

岡山県土木部道路建設課 (TEL)086-226-7468

# 情報公開制度の16年度施行状況

皆さんの市政への参加を推進し、公正で開かれた市政を実現するために、情報公開制度があります。この制度は、広報紙や各種刊行物などのほか、各部署で行なうさまざまな情報提供に加え、皆さんの開示請求に基づき、市が持っている情報を公開する制度です。

平成16年度の施行状況は次のとおりです。

実施機関	請求件数	処理状況				
		開示	部分開示	不開示	拒否	取り下げ
市長部局	2	2	0	0	0	0
教育委員会	1	1	0	0	0	0
計	3	3	0	0	0	0

## ■問い合わせ 情報管理室 (TEL)0227

# 10月1日に 国勢調査を 実施



2005 国勢調査  
平成17年10月1日(土)

- 国勢調査は、10月1日現在で高梁市に住んでいるすべての人が対象となります。
- 9月下旬に、総務大臣から任命された国勢調査員が皆さんの自宅へ、調査票の配布に伺います。
- 10月1日現在の皆さんの状況を調査票に記入していただきます。
- 記入いただく項目は、男女の別、出生の年月、就業状態、通勤・通学地、住居の種類など17項目です。

市民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

## ■問い合わせ

企画課企画係  
(TEL)0314、0209

中学、高校を高梁で過ごされた濱田俊郎さんが、この度、備中松山藩の基礎を築いた水谷3代を描いた「水のごとく 備中松山藩水谷家物語」を出版されます。

本で紹介と、高梁での思い出の便りをいただきましたので、ご紹介いたします。

### 高梁の思い出

昭和40年4月、上京してから40年余りが経ちました。高校時代、毎朝眠い目を擦りながら、始業のベルの鳴る中を校門に至る坂道を駆け上ったのがつい昨日のことのようです。当時は校則も厳しく外食や映画鑑賞も制限されていたように記憶していますが、同期の神埼光也君（医師・京都府在住）らと映画館に行ったり、熱いラーメンを啜った時のちよつとしたスリルが煌びやかな中華丼の模様と共に今でも鮮やかに思い出されます。期末試験の前日に友人達と高梁川で暗くなるまでハエ釣りに興



濱田俊郎さん(59)  
(東京都在住)

### 【略歴】

昭和21年、勝田郡勝安町に生まれる。高梁中学校から高梁高等学校に進み、昭和40年同校卒。東京大学法学部卒業後、東京にて弁護士となり、司法研修所教官、株式会社電通監査役等を経て現在に至る。金融審議会専門委員。高梁市には昭和35年から昭和40年3月まで居住（下町、本町）。

### 【本の紹介】

- 題名「水のごとく 備中松山藩水谷家物語」(酒井篤彦(筆名)・著)
- 四六版上製 本体価格1600円10月上旬発売予定
- 出版社 新人物往來社  
(東京都千代田区神田錦町3-18-3 錦三ビル TEL)03-3292-3931  
www.jinbutsu.jp

※最寄りの書店に注文頂くかまたは、上記出版社でも直接購入可能です。

## 「水のごとく 備中松山藩水谷家物語」を出版

じ、試験準備を放棄する等のたわいもない強がりもやりました。小池明夫君（JR北海道社長・札幌市在住）の家では炬燵に入り、何人かで人生の様々なことについて青い議論を戦わせたことも今では良い思い出です。時に、ホームルームを松山城址や方谷林で行ったのも高梁ならではのことでです。

東京では平松利昭君（画家・東京都福生市在住）が中心となり同期会を企画してくれ、その席で高梁弁を聞くにつけ郷里のことを懐かしく思い出しています。同君には今回の拙著の表紙絵でも大変お世話になりました。

本紙でのご紹介の機会を賜りましたことに対し厚く御礼申し上げますと共に「地方の時代」を迎えられた中で、数々の文化的・歴史的遺産を誇る貴市が今後益々のご発展を遂げられますよう心から祈念申し上げます。

# よろしくお願ひします

## 新しいALT

外国語指導助手(ALT)として、2学期から市内の学校で指導にあたる2人をご紹介します。アダム スチュアートさんは高梁地域局管内の3中学校や市立高校、ウィリアム バルベイトさんは、有漢地域局管内の幼、小、中学校を担当します。



アダム スチュアート(英)

アメリカ東部の海岸にあるニュージャージー州で生まれ育ちました。ジョージ・ワシントン大学で心理学の学士課程を学び、卒業後は慈善団体に参加して、東ヨーロッパにあるブルガリアで2年間働いていました。町は黒海沿岸に位置する人口約1万3千人のバルチックという所でした。慈善団体で働いている間、環境保護に関わっていました。仕事

は地元の学校団体に生態学を教え、放課後には、他の先生方の仕事の手助けをしていました(コンピュータや新聞関係の手伝い)。また、一週間に一回地元の高校で英語クラブを始めました(例えば、カフェやお金のかからない場所で、英語の授業とは違い、ただお互いの国の言葉を教えあう、または話を楽しむようなクラブ)。

そして私は、バルナという町にバイクラック(盗難が多いため、バイク専用の駐車場が必要で、駐車場という意味)を設置するという計画に参加して、地元のNGOからお金を受け取り、バイクラックをバルナの町周辺に設置して、それをみんなで祝いました。

ブルガリアから帰った後は、大好きなバレーボールを続けていました。地元の少年・少女や高校でのバレーボールチームのヘッドコーチをしていました。大学のヘッドコーチも頼まれましたが、日本に来ることになりましたので、お断りしなければなりません。日本で皆さんと働くことや、日本の文化や言葉に私自身で接することをとても楽しみにしています。皆さんと素晴らしい関係を築きたいし、あなたたちがアメリカについて学ぶであろうと同じくらい、私も日本について学ぶことができますでしょう。

Adam Stewart



ウィリアム バルベイト(英)

アメリカのペンシルヴェニア州のニューキャッスルで生まれ育ちました。ピッツバーク大学に1998年から2002年まで在籍し、美術学部で美術史と建築学を学び卒業しました。2002年から2003年までの一年間、幼稚園から小学校までの教員資格を得るために、ピッツバーク大学の教育プログラムを受けました。

卒業後はニューキャッスルに戻り、2003年9月から2005年の6月まで、地元の2つの学校の臨時教員として働いていました。日本に来るのは初めてで、私にとって初めての海外です。

日本で出会う仕事仲間や学校での同僚が、有漢の生徒と同じくらい、アメリカについて私がみんなの情報源になることを期待しています。ALTの仕事をしている間、知識を深めるために、この地域で多くの文化的な活動に参加したいと思います。そして、帰国するまでに、日本語をできるだけ多く学ぶことができたらいいです。

趣味は鉛筆を使ってのデッサンと、絵の具を使って絵を描くことです。日本での経験がアメリカでは決して得る機会がなかった私の趣味にユニークな要素を加えることを願っています。私はこの国で過ごすことを、とても楽しみにしていますし、自分の持つすべての能力をALTの仕事や学校で発揮できるように努力します。

William J. Barbeit

関係(TEL)0209)

■問い合わせ 企画課企画

係(TEL)0209)

て、積極的な取り組みを行っ

用することになっています。

道1路線と林道2路線に活

計画を認定し財政的な支援

を行うものです。今回は、市

町村事業について、国がその

これは、地域が自主的・自

立的な取り組みを行い、地域

活力の再生が見込まれる市

長に授与されました。

京都)で小泉総理から秋岡市

が7月19日、憲政記念館(東

「地域再生計画」の認定書

が7月19日、憲政記念館(東

京都)で小泉総理から秋岡市

長に授与されました。



「地域再生計画」  
認定される